



授業のヒント

じゅ ぎょう

テーマ

チラシから学ぶ

目標 もくひょう
スーパーなどのチラシの情報を読みとることができる。 チラシから日本の文化や生活を理解する。
学習者のタイプ がくしゅうしゃ
初級後半～ じょきゅうこうはん
クラスの人数 にんずう
何人でも
用意するもの ようい
新聞といっしょに配達されるチラシ ウェブサイトアップされている電子チラシ

- どの店のチラシなのか。
- 安く売られているものは何なのか。
- 安く買えるのはいつなのか。

そこで、上のチラシの一部の商品を下のように切り取って、それが何なのか、提示されている値段で買うことができるのはいつなのか、などについてQ&Aの形で確認すると良いでしょう。



チラシの切り取りの例

◆チラシとは？

日本では毎日配達されてくる新聞にたくさんのチラシが折り込まれています。中には、写真がきれいで、季節や年中行事などを感じられるものもあります。

このチラシを活用することによって、授業が活性化したり、日本文化を学んだりすることができます。

日本で生活する学習者にとっては、チラシは地域に密着しているものなので、すぐに生活に活かすことができます。また、海外の学習者の場合は、日本の文化（特に食文化）や行事を学ぶ教材にもなります。

◆活動の流れ①

まずは、チラシを用意しましょう。日本の家庭や職場などで新聞を定期購読していれば、毎日たくさんのチラシが届けられます。今はウェブサイトでも最新のチラシを得ることもできますので、海外にいる人もチラシを見ることができます。このページの最後に、電子チラシを閲覧できるサイトのURLをいくつか紹介していますので、参考してみてください。



チラシの一例 1

初めて日本のチラシを見た学習者には、チラシの内容を理解することが意外と難しいかもしれません。例えば、次のような点です。

◆活動の流れ②

上に述べた活動では、1枚のチラシから情報を読み取ることが主な目的でしたが、同じ種類のチラシをもう1枚用意すると、活動の幅がぐっと広がります。



チラシの一例 2

例えば、学習者を二つのグループに分けて、それぞれのグループに別の店のチラシを渡します。

グループ1とグループ2では、持っている情報が違います。そのインフォメーションギャップを利用して、例えば、野菜やくだものの値段を比べることができます。また、みんなでいっしょに買い物に行く設定で、どちらのスーパーが安く買い物ができるかといった話し合いをすることもできます。

日本国内の教室なら、本当の買い物に役立つでしょうし、海外での教室なら自分の国での値段と比較することもできますでしょう。

◆チラシに見られる季節や年中行事

チラシには、それが作られたときの季節や年中行事が反映されています。一番はっきりしているのは食品でしょう。野菜やくだもの、それに魚などにより季節を感じることができます。

食べ物だけではなく、季節を先取りしたファッションや電化製品のチラシ、七五三や成人式の前には着物のチラシが増えることなどからも季節や行事を感じ取ることができます。卒業式や入学式の前には式典用の服装のチラシが多くなります。

ランドセルは、小学生が通学に使うかばんです。4月に入学する新一年生が両親または祖父母などから買ってもらうので、入学前の時期にチラシが配られ、商品としてランドセルが店頭と並びます。

もっとも、この頃は販売の時期がだんだん早くなってきました。また、ランドセルは最近外国人の間でも人気商品になりました。本来の販売時期や用途を確認する意味でも、チラシを使って「ランドセルは誰が使いますか?」「いつどこで使いますか?」「ランドセルが店頭と並ぶのはいつだと思いますか?」などQ&Aの形で進めると楽しい授業になると思います。もし、日本人の先生が学校にいる場合は、その先生が昔使っていたランドセルの写真や実物を見せると、一段と授業は活気付くことでしょう。



チラシの一例3

(「そごうのランドセル」2015 デジタルチラシより)

◆チラシから学ぶ日本の住宅事情

毎日の折り込みチラシには、毎日のお買い物に役立つチラシのほか、車やマンションのような大きな買い物のチラシもあります。



チラシの一例 (部分) 4

学習者の中には以下のような図を見て日本での住まいを決めた人もいるかもしれません。



間取り図の例

改めて見ていきますと、このチラシには住宅に関する日本文化をたくさん見出すことができます。

mと並んで使われている「坪」や「帖」「畳」。「4LDK」や「DK」などの略語。アパートやマンションを借りるときに目にする、「礼金」「敷金」「保証金」や「管理費」など。「日当たり」や「駅近」などからは、日本人がどのような条件をいい条件だと考えているかという価値観に気づくことができるでしょう。

一度に全てを理解する必要はないと思います。必要な情報を順番に読み取っていくことが大切です。そうすれば、そこから多くの日本文化が見えてくるはずですよ。

毎日発信される生きた教材の「チラシ」。是非活用してみてもいかがでしょうか。

<参考：電子チラシが閲覧できるサイト>

- 「Shufoo! (シュフー)」 <http://www.shufoo.net/shxweb/site/top.do>
- 「オリコミーオ!」 <http://orikomio.jp/>
- 「シュフモ」 <http://shuf.jp/>

<チラシ転載 (URLは2015年1月現在)>

- ・「そごうのランドセル」デジタルカタログ そごう大宮店 <http://e-catalog.sogo-gogo.com/common/20140619/001/index.html?shopId=3719&chirashiId=8804031710332>
- ・「グランシティ武蔵浦和 (不動産) 日本総合地所株式会社 国際交流基金 (2008)『日本語教師必携 すぐに使える「レアリア・生教材」コレクションCD-ROMブック』(スリーエーネットワーク) <http://www.s3e-net.com/> ※本書の出版は、初版分のみで終了しました。

このコーナーの担当者：岩澤 和宏 (関西国際センター日本語教育専門員)

読者のみなさんからのアイデア、成功例、失敗例などぜひお寄せください。